狂気をいやす神　ネルヴァルにおけるディオニュソス

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>篠田 知和基</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>心の危機と臨床の知</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>□</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>□</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>□</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.14990/00002840">http://doi.org/10.14990/00002840</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
説明

田條

御用.addButton("キリ"，"お茶する")

御用.addButton("キリ"，"お茶する")
投 稿 論 文

このことをかんがえらば、自殺であっても、か
なるとも、遠慮せざる病状の悪化の前、とは言え
ないだろう。ならば、彼の病歴をたどっておこ。
バリ大学医学部の学位論文で、レルヴァの病状を
まえに読んだことがあるが、とくに目新しい知見があ
ったわけではない。しかし、彼の病歴をたどっておこ
に、リシーの学位論文から、病歴をひろってみ
る。なぜなら、アルヴァの病気の発症は、一八四一年で、

「オーレリア」に記述されたものである。それまでに、
まったく前歴がなかったのか、どうかわからないが、
騒ぎをおこして、警官に手柄を保護されたのはおそらく、これが初めだら
う。警察沙汰を起こしている新聞記者たちも、おお、お子さん。
さ、記録もこされると、いくらかの発作なら、とくに問題に
するまでもし病気として始末されかせたく、どうも
その証拠もないようである。

「天才論」のロンドンから、母親のいない幼時、
父一人の、少年期は、ひどかに精神の異常を助長する
ものだという。それがまさに、レルヴァの幼児だっ
た。幸運な
家庭生活に守られて育った子供には、異常見にならない可能性はすく
ない。逆に、不幸な家庭であれば、少年はその出自を否定し、家
系幻想に走ったりもするだろうか。偽名を父親を否認する方法
であるという。レルヴァの父親の名前はラプユニだが、

アルヴァの筆名は、ローマ皇帝レルヴァからとられたという。レルヴァ
の名前は、アダの王、一八三一や、魔法の手、一二
等の単字の組合せで、彼の実名は、精神病院の「ピエールの王」といい、レルヴァ、スピチーム。

一八三九年は、ひどかに精神の異常を助長する
ものだという。それがまさに、レルヴァの幼児だっ
た。幸運な
家庭生活に守られて育った子供には、異常見にならない可能性はすく
ない。逆に、不幸な家庭であれば、少年はその出自を否定し、家
系幻想に走ったりもするだろうか。偽名を父親を否認する方法
であるという。レルヴァの父親の名前はラプユニだが、
好評をえる。これが最終的には一八五一年にシャルル・パンテが、

メリー・ブランシュ病院に収容された。その前年に、

オックスフォード博士の治療をうけていた。このときは、一月

末までに病院で退院したが、翌年、一八五二年一月には、

同様のものので入院した。このときは、一月

にしてもオックスフォード博士の治療をするということは

なかった。

一八五三年一月には、ブランシュ病院に収容された。

これは、一八五四年三月にも、ブランシュ病院に収容され、

一八五四年四月に再びブランシュ病院入院した。この時

はもう一度、大病院での療養を希望していた。これ

で、ラウールは、ことに多大な財産の名残をあつめていた。

ラウールは、所領をもたない貴族で、生活のために法曹院で法

学を学び、その成功を望んでいた。彼は、

新王は、王の地位を、あるいはそれに並行する公職への道を

拓くことを望んでいた。そのため、彼は、

の視線が、ひとりの顔を、そこに投げつらった。これ

から、彼は、彼の良識と、ヒエラルキ感覚をはなはだしく狂わせることとな

ており、彼は、

ラウールは、所領をもたない貴族で、生活のために法曹院で法

学を学び、その成功を望んでいた。彼は、

新王は、王の地位を、あるいはそれに並行する公職への道を

拓くことを望んでいた。そのため、彼は、

の視線が、ひとりの顔を、そこに投げつらった。これ

から、彼は、彼の良識と、ヒエラルキ感覚をはなはだしく狂わせることとな

ており、彼は、
このときの入院では、医療をつくって治療の結果、健康をとりもどしたが、わたしたの精神のかなに人間理性的規則的な流れをとどめずにはならなかった。それは、もしその紙をもう一つ、氷室が夢のなかにひそめて行くことをやめなかったときにおとしで、彼を抱えかえす。それでも一層に精神に落ち込んでいるだけの施設を去るときがあった。しかし「病院の状況がずっとあたになってからの再びを準備していた。途中のあとはまだすびなおされるのだった」と20。これが五三年の再びである。一部四章のおわり、ドモランの小説をひとつしてあげた、

しかし「その数日後から、頑固な不眠症にかかった。」一晩中、モーリス・プロトの丘をあるきっかけで日の出をながめた22。そのときからわたしの病状はさまざまなものと变化を、広さにしても一か月の生活費くらいの価値がある。彼の、最良の小説の一原稿料でもあったかもしれない。「金貨一枚というのはいつの時代でも一か月の生活費くらいの価値がある。しかし、中央市場のほうで金貨や銀貨を空中へひとりなげた」というから、デュボア病院はすぐに退院したようである。そこから「二か月間、パリの周辺の巡迴を再開して」という。しかし、この数日後から、頑固な不眠症にかかった。一晩中、モーリス・プロトの丘をあるきっかけで日の出をながめた22。そのときからわたしの病状はさまざまなものと变化を、広さにしても一か月の生活費くらいの価値がある。彼の、最良の小説の一原稿料でもあったかもしれない。「金貨一枚というのはいつの時代でも一か月の生活費くらいの価値がある。しかし、中央市場のほうで金貨や銀貨を空中へひとりなげた」というから、デュボア病院はすぐに退院したようである。
投稿論文

して、数年間を一日のなかで再構成したのかもしれないが、ほんと
どー一時間ごとに会いたかったことのためにも、この一時が
その偏執ぶりが異常にみえる。これも書いたのはおそらくその
二三年後のはずである。宿などで、日記などつけていながら
雨がやんだ。そのあと四時に約束をしていったので友人ジョ
ルジのところへゆき、濡れた服をぬいで、ペットに付いて
仮眠をとった。夢のなかに女神が現れて救いを約束した。月が
さめるとジョルジュとともに外へ出た。コック街で帽子を買い、
りで人ごみにおさまってパニックになり、辻馬車にのせられ
喜病院へ向かった。ここで病気のあだいにいるのがわかると
てが幻覚だったことがわかった。ここまでの四五時間の記録
は忘れに入細にわたる。

オーレリアには一年にわたる闇病と入院のあいだの狂
気と夢の記録を出させてくれているようにおもうが、じっさいは
四年の発作と二三年後の五年の発作について詳細な、かつ
一年の発作と二三年後の五年の発作については詳細な、かつ
臨場的な記録があるだけで、ほかはそのころ見た夢で、四九年
のものは四九年と五年の発作によっても詳細をくわえる記録の信びよ
のあとはひどい大洪水になるかもと思
う性がとわれまるけれど。執筆は五年一月である。二部の
最後は稿をポケットにいれて首をくくった。そこで描かれた
のは四九年と五年の発作についても詳細をきわめる記録の信びよ
だが、直後の記録ではなく、十数年から二・三年をへたもので
あれば、それは「再構築」された。「記憶」であって、実際の逐
次的記録ではない。こんな夢をみたという夢の記録の方
れば同じ夢をなんどもみるかもしないし、つづきもののよ
うな夢をみることもあるだろう。一部四章、五章は第一の夢、
六章が第二の夢、七章八章は目覚めても見る夢あるいは幻を紙に
かいたもの、一章はそれが夢にはいったものである。二部二
章にはオーレリアを再度うしなう夢が描かれる。四年の
発作の記録には、そのあとみた夢がいくつかついている。そ
れらは夢としてはとても精神の異常をおこさせるところはない
が欄のたための必ならなんでもありうるのである。ただ、夢の物語として
夢の中ならなんでもありうるのである。ただ、夢の物語として
の論理的なつながりはかなしみまっていて、脈絡のある一
貫した夢を紡いでいる。

夢と幻覚についてのネルヴァルはあえてわけていない。狂気
は「夢の現実世界への流出」であると、い。「夢は第二の生」
あるというのである。ちなみにこの「夢は第二の生活」という表現についてはよく言われており、第二の生活という、たとえば定年後、第二の人生などを思わせるからこそ、第二の人生というとされるのが多々ある。しかし、第二の人生などとは思いならぬ。これはしていないだろうか。ところが、この「角の扉」、象牙の扉」だが、角の扉、象牙の扉」ともいいう、門なのが扉である。つまり夢は「もうひとりの生活、あるいは第二の人生、あるいは存在」であるという意味である。

「オーレリアー全編をとおして語り手は、角の扉、象牙の扉」という神の病の試練をくりぬけ、その狂気の秘密を夢にさかっているのである。夢の現実への流出あるのである。一般に夢は現実の体験を夢の理論に換して追い返すものとされるが、現実のうち、あきらかに非論理的なものが夢にいったときに、その非論理性がいったらあらかじめないといえない。大浜宗氏はネルヴァルがこの後者がいつわりの夢であるという。夢には二種類あり、角の扉を通ってきたものと象牙の扉の夢とがあり、前者が正夢で、後者が必要なりの夢である。角と象牙という材料はいかなる建物に相当するのかはわからないのである。角の扉、象牙の扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のような「ガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいえない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいられない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいらない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいられない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいられない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいられない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガラスの扉とはいられない。一方、鳥居のようなガラスの扉は、ガ拉
オシリスの教えでもあった。オシリスは冥界的王であり、ギアの山中でおいいる女神キュペレに抱きしめて狂気から救った。オシリスは、演劇をしたディオニーヌス神の神徳を、演劇人としてディオニーヌス神の本性をたたえるために舞台を楽しみにした。ディオニーヌス神の本性は、狂気から救う一役を果たした。演劇を楽しみにしたオシリスは、演劇をしたディオニーヌス神の神徳を、演劇人としてディオニーヌス神の本性をたたえるために舞台を楽しみにした。ディオニーヌス神の本性は、狂気から救う一役を果たした。演劇を楽しみにしたオシリスは、演劇をしたディオニーヌス神の神徳を、演劇人としてディオニーヌス神の本性をたたえるために舞台を楽しみにした。ディオニーヌス神の本性は、狂気から救う一役を果たした。演劇を楽しみにしたオシリスは、演劇をしたディオニーヌス神の神徳を、演劇人としてディオニーヌス神の本性をたたえるために舞台を楽しみにした。ディオニーヌス神の本性は、狂気から救う一役を果たした。演劇を楽しみにしたオシリスは、演劇をしたディオニーヌス神の神徳を、演劇人としてディオニーヌス神の本性をたたえるために舞台を楽しみにした。ディオニーヌス神の本性は、狂気から救う一役を果たした。演劇を楽しみにしたオシリスは、演劇をしたディオニーヌス神の神徳を、演劇人としてディオニーヌス神の本性をたたえるために舞台を楽しみにした。ディオニーヌス神の本性は、狂気から救う一役を果たした。
一切の業には、心を動かすことのないものはありません。
投稿論文

月ノ一日づけの領取書では「バリ評論」から「フランス受け取った」という。（プレイヤー版新装全集・九〇三、三巻、八九九頁）

そのまえにフランス病院の持ち込んでいた家具類をひきとってほしいと病院がいわれたとき、父親はこうとっている。息子に関する面倒なこともあり、彼は父親に対して、「これ以降、金の心配をしてもいたくない」と言っている。（旧版八八五頁）

これについて伝説だという説もある。警察の取り調べにおける所持品一覧にはハンカチ一枚、あたっても原稿はなかったという。

しかし、つねにあわせの紙切れに原稿やメモをかいてポケットに入れていた習慣からすれば、「オレアリ」の原稿ではないとも、なかのメモはあたはずである。すべて無用の反話、紙屑として警察で処分されたのかかもしれない。一八五四年六月とみられる「バリ評論」の編集長、ルイ・エルバックあての手紙で、中巻中でも死に至ってある尋常ならざる道をへて詩人の高みに達する天才にとって、もっとも自然な道は天折であると福島章が「天才の精神的」新曜社「九七九でのべていることと採用しながちを論ずるため、ネヴァールの死も天才の必然であるともいえなくはならない。すなわち、人生を認めつつしての死を考えた川端

松井好夫は「ネルヴァールの生涯と精神病理」と「九八三でネルヴァールを編集した旧版の全集については若き世代から批判がされているが、いくつかの実稿がたっても、彼の全業績を否定しようものではない。とくにアンドレ・ブルトンに評価され短い文学評者や神秘学者としての業績の独自性と重みはかかるものである。（精神科学者かノリュの研究者）

一八四三年五月の友人あての手紙では「私の病気は別にたいしたことはあらまません。こんな神経の発作はずっとまつり何度も経験していま」、といった「旧版八七頁」カデ街にはフリーマーソンのグラン・トリアン（大東方会本部）があるので経験していなかったからかもしれない。リヨンからの父親あての手紙、二月二日に「友人たちもうなにをしたか、恐ろしい病気」について語ったあと、「そのよう

20
大浜 茜「イシ幻想」芸術出版、「一九八六」。
文献

とくに四年から五年にかけてまとめた『东方の旅』は全集版で三〇ページの大作であり、全体の構成も緻密で、精神活動の遅滞をうかがわせるところはない。

ジャンル『ディオニューサスの秘密儀礼』の狂気の治療に際し一般的に用いられる方法である。一〇〇頁,

この点についてはストリンドベリにについてつきのようにいわれていることがネルヴァルにもあえてはまるだろう。彼は自己の病の体験を作品の上に投影することによって己の心の平安をもつことができた。春原千秋、横谷哲男『精神科医から見た西欧作

家』、毎日新聞社、一九七九。

「しのだ・ちかし／比較文学・ヨーロッパ神話論」